

## こども園のトイレを洋式に

本年度、こども園のトイレを洋式にする工事を行います。8園（大井、やまびこ、東野、みさと、飯地、岩村、山岡、上矢作）の工事を行うことで、市内全こども園のトイレが洋式となります。

子どもたちが普段から使い慣れている洋式トイレにすることで、園でも安心してトイレを使うことができます。

同時に、床を乾式化します。床を濡らすことなく掃除できるようになるため臭いが発生しにくくなり、清潔な環境を保つことができます。

問い合わせ 幼児教育課（内線433）



### 関連するSDGsの目標とターゲット

#### 目標 4 質の高い教育をみんなに



#### ターゲット 4a

誰もが安心して利用できる教育施設とするため、衛生的で、子どもたちが安心して生活できる環境を整える。



## 地域新電力会社「恵那電力」の発電所

電力の地産地消で「ゼロカーボン」を目指すよ



▲上空から見た吉田発電所

今月は、明智町吉良見にある恵那電力株式会社（株）の吉田発電所へ行ってきました！  
この会社は、恵那生まれの電力を恵那で使う「地域新電力会社」。日本ガイシ（株）さんと中部電力ミライズ（株）さん、市の3者で、令和3年4月に設立したんだ。エネルギーの地産地消で、ゼロカーボンに挑戦するんだって。市内の公共施設の屋根や遊休地の太陽光発電設備で電気を発電して、今年の4月から、62の公共施設と明知ガイシ（株）大久手工場へ送っているよ。  
吉田発電所は、市内にある10カ

所の発電所の一つ。太陽光パネルが2112枚並んでいて、年間約50万kwhを発電する予定なんだ。そうすると二酸化炭素を約190t削減できるんだって！  
それから、電気を貯めておく大きな蓄電池もあるよ。この蓄電池には、一般家庭100世帯が1日に使う分の電気が充電できるんだ。今後、貯めた電気を災害時などに使えるような仕組みも作っていくんだって。  
恵那電力さんのゼロカーボンシテイの実現に向けた取り組みから目が離せないんだ。ナ。  
問 ゼロカーボン推進室（内線209）



▲これが大容量蓄電池だよ



悩んでいませんか？

## 事業所のデジタル化



デジタル化したいけれど、どの業務に取り入れることができるのかわからない、何をすればよいのかわからない…そんな悩みはありませんか？  
当センターでは、デジタル技術導入やネットショップ活用などの相談も受け付けています。何度でも無料で利用できます。気軽に相談ください。

「デジタル化総合相談窓口」で、こんなアドバイスができます

### デジタル技術の導入

- ✓ 問題点の整理
- ✓ デジタル化計画の策定
- ✓ 補助金申請の支援
- ✓ 設備導入
- ✓ アフターフォロー

何に取り入れればいいの？

どこから手を付けようか…

### ネットショップの活用

- ✓ ショッピングモールの仕組みと料金の比較
- ✓ 出店方法、運営方法
- ✓ 自分でショップを作る方法
- ✓ 無料サービスの使い方

どうやって出店するのかな

※セミナーや相談会も開催しています。まずは、問い合わせください



問 恵那暮らしビジネスサポートセンター 恵那市大井町 206-5  
☎ 26-2266（午前9時～午後5時・月曜定休） ✉ info@enalifebizsupport.jp



## 物知り先生のふるさと情報

（佐藤一斎生誕250年）

### 岩村を訪ねた佐藤一斎

NPO法人いわむら一斎塾  
鈴木隆一さん（岩村町）

佐藤一斎は50歳を迎えた年、美濃と京都に、先祖の墓参りに出掛けました。  
文政4（1821）年7月に江戸を発ち、8月に上野（現美濃市）に到着しました。鈍尾山（古城山）に先祖の遺跡を訪ねた後、麓の清泰寺で墓参りをしています。  
その後、中山道を西へ進み、米原（現滋賀県）から舟に乗って琵琶湖を渡り、陽明学者である中江藤樹の私塾「藤樹書院」を目指しました。琵琶湖では、穏やかで波静かな湖面を航行中、突然比叡山からのつむじ風と雨に見舞われ、舟が方向を失い別の所へ漂着するというアクシデントに見舞われました。この恐怖の様子が『愛日楼文詩』に収められています。  
翌日、憧れの藤樹書院を訪れ、京都で先祖の墓参りをした後、大阪を経て、その帰り道に岩村に立ち寄りました。家老小菅信久の妻になっている姉の智恵に会うことと、師匠の林述斎が号として使っている「天

瀑山」に登ることが目的でした。この様子は『言志後録』241条に見られます。また『愛日楼文詩』に「天瀑山に登れる詩並びに序」が載っています。「わが師である林述斎が号としている天瀑山は岩村にあり、そこには人間の顔をしているが鳥のくちばしを持った妖怪が住んでいる」との書き出しで、「キノコが採れ、滝の水も冷たくとてもおいしい」など、岩村藩の将来を嘱望される若い侍を従え、海拔776尺の山に登ったことが五言古詩で詠まれています。この序文の一部は、天瀑山中腹の大きな岩に刻まれています。  
一斎はこの旅にとり、9月に江戸へ帰りましたが、姉の智恵は翌年亡くなり、岩村の乗政寺山墓地に葬られました。  
▲天瀑山にある佐藤一斎の碑文



▲天瀑山にある佐藤一斎の碑文